

# 栃木医療センター

No.30 2017 April



理念

信頼 貢献 協働



## Contents

- 防災訓練 ..... 1
- 職場体験学習・救急探検ツアー ..... 2
- 病棟薬剤業務 ..... 3
- 栄養管理室紹介 ..... 4
- 病棟紹介(1階病棟) ..... 5
- 連携医紹介(大栗医院) ..... 6

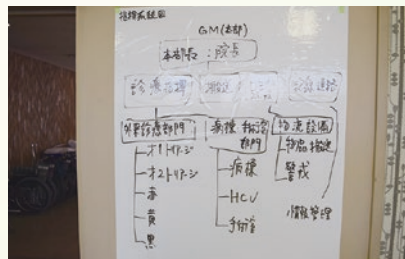
# 災害訓練報告

7階病棟 看護師長 高橋 規子

東日本大震災から間もなく6年が経過しようとしています。みなさんはその時どのような状況に直面していましたか。私は、手術室へ向かうエレベーターの中で「地震です。直ちに降りて下さい」の表示が点滅し「あれ？なんだろう」と思いつつ、1階で降りたところで轟音と共に今までにないくらいの揺れにみまわれました。ストレッチャーにいる患者さんをかばうのが精一杯でした。その後病棟の水漏による漏電の危険があり、患者さんを3階から外へ避難させ受け入れ病棟のベッド準備、患者確認などと慌ただしく不安なまま深夜勤務をしたこと病棟・病院の機能が正常に戻るまでには時間がかかった事を、今でも昨日のように思い出します。

先日2月11日（土・祝）に当院で災害訓練が実施されました。今年は、宇都宮市役所から20名の見学参加と、附属看護学校から災害教育授業の一環として、1年生が患者役で参加され総勢100名以上で訓練が行われました。地震による災害設定として「フェイズ1」が宣言され、負傷者の受け入れ態勢を整え訓練が開始されました。その後から、第一トリアージブースに患者がぞくぞく訪れトリアージされ、第二トリアージ、赤タグ（救急外来）と患者が搬送され実際の動きを想定し、緊急手術や入院、処置などの対応を実施していました。また、時間の経過とともに、人・物資の不足、建物の損害など状況が刻々変化し、災害対策本部内では、患者情報と損壊補修・物資配備・人材確保と配置を相談し指示していました。搬送患者数63名、患者情報の錯綜や患者搬送の停滞、トリアージブースの混乱などと、次年度に向けての課題と取り組み内容を見出すことが出来た研修でした。

しかし災害対応は短期決戦ではありません。発災直後から本来の機能が復活するために時間がかかります。また、精神的なフォローも必要となります。常日頃から災害時における対応と栃木医療センターの役割を理解し、医師、看護師、コメディカルと病院にかかわるすべてのスタッフがコミュニケーションをとり、情報を共有しチーム連携を図ることが重要であると考えます。災害が発生した時に自分がどう動くか、役割は何かを今一度認識し対応できる職員である事を願います。備えあれば憂いなし！！





# 平成28年度 職場体験学習について

庶務係長 岡村 昌之

28年度の社会体験学習として、7月に白楊高校及び晃陽中学校、9月に陽西中学校、11月には国本中学校の学生さん達が当院で過ごして行きました。

患者さんの受付、検査、放射線撮影、入院、投薬、手術、リハビリといった各部署での流れを見学したり、病棟では患者さんの食事を手伝ったり、ベッドメイキングや話相手になったり、足浴などを体験しました。

看護学校では看護師になるための流れや、学校見学をし、手術室見学では手の消毒体験や手術着を着たり、手術台に寝て監視モニターを付けてみたり、初めての体験をして目を輝かせていました。

最終日のアンケートには、「改めて看護師になりたいと思いました」「将来に役立ちました」といったコメントをいただき、とても嬉しく思いました。短い間でしたが職員も楽しく過ごせて良い刺激になりました。将来看護師になった皆さんを心よりお待ちしております。



## 「救急探検ツアー」について

庶務係長 岡村 昌之

宇都宮市からの要請で、8月に市内の小学校3～6年生及び保護者の方を対象に「救急探検ツアー」というものを開催しました。

当院の副院長による救急外来の説明や、実際の急患室に入って血中酸素濃度モニターといった見たことのない器材の説明や実際に触ったりして、MRIの磁力の強さや画像を見たり、小学生だけでなく保護者の方も興味深げでした。

今後もこのような行事に対し積極的に協力し、住民の皆さまに救急受診に係る理解を深めて行けたらと思います。



# 当院での病棟薬剤業務について

栃木医療センター薬剤部 調剤主任 塚本 真也

当院での病棟薬剤業務がはじめてから3ヶ月が経過しました。医師と薬剤性有害事象について検討している、麻薬が追加になった患者の点滴ルートについて看護師に指示を出している。そんな風景が病棟ではよく見られるようになりました。業務の合間に見渡してみれば、7つある全ての病棟で日常のこととして定着してきた感があります。

10年前くらいから病棟に薬剤師を置く病院が増え始め、病棟薬剤業務実施加算が診療報酬に組み込まれる前後から一気に全国的な流れとなりました。ですが我々薬剤師はそれ以前より少しずつ病棟での業務を拡大してきた歴史があります。

当院においても、病棟定数薬剤の管理、持参薬鑑別ならびに持参薬処方提案、カンファレンスと病棟回診への参加など、病棟薬剤業務算定が始まる前から多様な業務を行ってきました。算定要件を十分に満たすため、人員の補充やシステムの整備、業務の見直しなどを行う準備期間は必要でしたが、その準備があったからこそ病棟においても薬剤部内においても混乱をきたすことなくスムーズな導入が行えたと思っています。

しかしながら、他職種の方々にとっての薬剤師の位置づけはあまり変わっていないようにも感じられます。他職種から（特に医師、看護師以外の！）「こんな仕事はできないか」「こういうことで協力して欲しい」というアプローチがもっとあってもいい。むしろそこからニーズを掘り起こして新たに業務を構築していくことができなければ、どんどん時代の流れから取り残されていってしまう。そんな風にも感じています。

10年後、20年後には病院薬剤師がどのような仕事をしているのか。色々想像することはできませんが、少なくとも必要とされる能力はこれまで以上に多岐に渡ることでしょう。そのときに備えて自己研鑽に励み、後進を育てる。その姿勢は今も昔も変わらないなあと、今改めて思うこの頃です。



# 栄養管理室紹介

栄養管理室長  
小林 佐依子

## 【栄養管理室目標】

患者さん個人にあった安全でおいしい食事の提供と栄養相談の  
実践をとおして食事に関する情報を提供する。

### 『管理栄養士の仕事は?』

病院食の献立を作成するだけでなく、入院患者さん一人ひとりの病状に合わせた栄養管理をおこなっています。病棟ごとに担当の管理栄養士を決め、栄養管理計画書を作成し、食事内容が適切であるかなど定期的に確認しています。業務内容は給食管理から栄養管理センターの業務に変わっています。

### 『栄養管理室の紹介』

当センターの栄養管理室の管理栄養士4名は、主に入院患者さんの栄養管理や献立作成、入院・外来の栄養指導を行い、病院食の調理については病院の調理スタッフと委託会社の職員が担当しています。

### 〈病院の食事〉

入院中の食事は、患者さんの病状に合う適切なものを安全かつ衛生的に提供しています。また、食事が楽しみになるよう行事食を取り入れたり、常食の方を対象に週2回特別メニューの実施、ご出産された産婦さんにはささやかな祝い膳をお出ししています。

食欲のない方には、少しでも食べたいと思う食べ物を提供できるように病棟訪問し、直接お話を伺っています。

設備の整った厨房で、病院の食事はおいしかったと言っていただけのような食事提供を今後も努力していきたいと思っています。



### 〈チーム医療〉

管理栄養士が関わっているチーム医療には、栄養サポートチーム(NST)、摂食嚥下サポートチーム、褥瘡ケアチーム、緩和ケアチーム、生活習慣病診療チームがあります。主に、低栄養や食欲低下の患者さんを中心に食事の調整等を行っています。緩和ケアチームでは、最期を病院でむかえる患者さんに食べたいものを1口でも食べてもらうことができるように他部門と協力しています。

生活習慣病診療チームでは、毎週木曜日に医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・作業療法士・理学療法士・管理栄養士が担当制で、それぞれの専門の立場から患者さんにお話ししています。



### 〈栄養指導〉

入院・外来通院の患者さんを対象に栄養指導を行っています。生活習慣病の治療は食事が基本であり、食生活の改善が疾患の治療に大きく関係します。患者さんが長期的に実践可能な食事療法についてご提案しています。栄養指導をご希望される方は、主治医にお申し出下さい。地域連携をとおして、地域の病院に通院されている方の栄養指導も行っています。お気軽にお問い合わせ下さい。



病院ではもしもの災害に備えて、保存飲料水、アルファーマ、長期保存パンなど用意しています。また、食物アレルギーのある方や嚥下機能が低下した方に対応できる食品も準備しています。





# 1 階病棟

1階病棟 看護師長 薄根 由紀

1階病棟は整形外科メインの病棟であり、52床（有料個室12部屋・重症個室4部屋・4人床9部屋）あります。整形外科病棟における患者は運動器系（骨・関節・筋肉・神経・靭帯等）疾患や交通事故による外傷の患者が多数入院しています。高齢者の方が多く主疾患の他に認知症や内科系の疾患を抱えている方が多いです。日常生活の中で転倒し受傷したり、交通事故や以前からあった症状が強くなってきて入院に至るなど様々な方が入院しています。

当院は「二次指定医療病院」「地域医療支援病院」として地域密着型の医療を提供しており、小児科から高齢者の受け入れを行っています。私たち看護師は様々な背景を持った患者の個性を把握し不安なく安心して過ごせるようチーム一丸となって看護に取り組んでいます。看護体制はチームナースングとプライマリナースングを取り入れており、受け持ち看護師を中心にチーム全体で患者・家族・ケアマネジャー等と関わり入院時から退院における調整を図っています。患者にとって入院生活が苦痛にならないよう個人に合わせた生活環境の調整や日常生活のリズムを把握し対応しています。患者への関わりは病棟スタッフだけでなく外来看護師、リハビリ科、地域

医療連携室等の他職種と連携し、患者の情報共有をしながら患者の特性に応じニーズに合わせた看護提供を行っています。

多くの患者は手術を目的としており、手術前後の疼痛や術後せん妄など様々な症状があります。疼痛があったり、治療上安静が必要であったりと自分で身体の向きを変えることができない、トイレに行けなく尿器・オムツを使用したり、食事をとることが困難である等様々な援助必要とする方がいます。「こんなことで看護師を呼ぶのは申し訳ない。自分のことは自分でしたい。恥ずかしい。」等ナースコールを押すことをためらってしまう患者がいます。例えば清拭・オムツ交換の際に男性では恥ずかしい、逆に女性では恥ずかしいといったこともよく聞かれる内容ですが当病棟には、女性看護師だけでなく男性看護師もいますので安心してください。どんな時でも笑顔で対応出来るよう心掛けています。私たちは患者が無理なく我慢することのないよう看護が提供できるようにスタッフ同士で取り組んでいます。

入院時から退院時を見据えた関わりを意識して入院生活における看護だけでなく、退院後の生活において患者・家族が安心して生活が送れるよう地域との連携を図りサ

ポートする取り組みをしています。看護師は患者のそばにいる時間が最も長く、常に患者の状況の変化に目を配り相談のするなど昼夜関係なくどんな時でも素早く対応できるように関わっています。

病棟目標に5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を掲げ、病棟スタッフや患者・家族が笑顔で気持ち良く生活できるように努力しています。個性あるスタッフも多く笑顔のたえない病棟であり、活気あふれています。



## 大栗医院

院長 大栗 健彦

当院は、昭和8年に私の祖父が仙台から帰郷して、当時資材置き場であった当地を取得し、有床の診療所として開設したのが始まりです。祖父は内科医でしたので、診療所では主に内科診療を行っておりました。また、軍医でもあり、中国各地を転戦したため、診療所を空けることもあったようです。当診療所は昭和20年の宇都宮空襲で全焼しましたが、翌年には再開、昭和39年からは私の父も加わり、その後数年、祖父と父の2人体制で診療を行っておりました。父は産婦人科医でしたので、内科研修をするため、栃木医療センター(当時の国立栃木病院)でしばらく研修を受けたと聞いています。昭和42年に祖父が他界し、以降、父一人での診療体制でしたが、平成8年ごろから私が1回/週で診療に加わるようになり、平成12年から当診療所常勤となりました。平成18年に父が他界してからは、院長として、循環器内科医の私の妻と2人体制で診療を行っております。

現在、当院は消化器、循環器疾患を中心に、一般内科、小児科、婦人科の外来診療を行っています。消化器疾患は内視鏡、超音波検査など、循環器疾患は心エコー検査などを主体に行い、ほかの内科疾患や小児科の一般診療と父の代から行っている婦人科は主に感染症の検査治療を行っています。

私は卒業後約16年間、大学のある神奈川県を中心に消化器内科を専門に診療をし、また、数年病理学で勉強をさせていただきました。今後、専門性を生かしつつ、総合医として当地の地域医療の一端を担っていきたいと考えております。また、当院のような外来診療が可能なのも、栃木医療センターのような連携病院があるからこそと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いたします。



### ご案内

〒320-0034

栃木県宇都宮市泉町1-27

診療科目 内科、消化器科、循環器科、小児科、婦人科

電話 028-622-5166

ホームページ [http://www.myclinic.ne.jp/ohguri\\_iin/pc/](http://www.myclinic.ne.jp/ohguri_iin/pc/)

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝日
9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	休診
14:00~18:00	○	○	○	休診	○	○*	休診

※ …14:00~17:00

【休診】木曜午後・日曜・祝日

## ゴールデンウィーク中の外来診療について

ゴールデンウィーク中の5月1日(月)、5月2日(火)は通常通り外来診療を行います。  
詳しくはホームページをご覧ください。

## 眼科一次救急

当院では、平成20年7月より栃木県医師会と協力して、日曜日・祝日・年末・年始の10時～17時に眼科1次救急の眼科診療を実施しています。

なお、土曜日は、眼科1次救急診療は実施しておりませんので、ご注意ください。

## 『初診時保険外併用療養費』 の負担金額変更のご案内

4月より以下の通り、負担金額が変更となります。

H29年3月31日まで  
**1,620円(税込み)**



H29年4月1日より  
**3,240円(税込み)**

※ただし、以下に該当する場合は紹介状がなくても、初診時保険外併用療養費をご負担いただく必要はありません。

- (ア) 救急車での搬送救急の受診の場合
- (イ) 各種の公費負担医療制度の受給対象の方  
ただし、こども医療費助成制度等はご負担いただきます。
- (ウ) 今回の診療科は初めてでも、他の診療科に通院中の方
- (エ) 生活保護法による医療扶助の対象となられている方

地域医療の役割分担の推進のために、ご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。

## NHO PRESS ～国立病院機構通信～について

NHO PRESS 国立病院機構通信 2017.01 vol.2  
独立行政法人 国立病院機構  
〒132-8601 東京都葛飾区新小岩1丁目1番1号  
TEL: 03-5713-2000 FAX: 03-5713-1391  
http://www.hosp.go.jp



栃木医療センターは、国立病院機構(NHO: National Hospital Organization)という143の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構(NHO)という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する『NHO PRESS～国立病院機構通信～』を発行しています。外来受付機横に設置していますので、ぜひご覧になってください。

なお、ホームページに最新号と過去のを掲載していますので、そちらもぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。

NHO PRESS

検索

QRコード▶



**平成29年6月10日(土)に病院祭・七葉祭(看護学校文化祭)・市民公開講座を開催します。  
皆様のご参加をお待ちしております。**

発行人

独立行政法人国立病院機構  
栃木医療センター

院長 長谷川 親太郎

〒320-8580

栃木県宇都宮市中戸祭1-10-37

TEL. 028-622-5241 FAX. 028-625-2718

URL. <http://www.tochigi-mc.jp/>

